

就労支援部会ワーキンググループ 議事録

10月29日(水)		αグループ			
進行	安部 氏	発表	磯崎 氏	記録	事務局 岩谷
ワーキングルール		・進行、発表者を決める。 ・意見は簡潔に述べ、平等に発言の機会があるようにする。 ・特定の機関、立場を否定する発言はしない。			
●就労選択支援の中で各機関が感じている課題等の共有●					
① 就労選択支援と学校実習の関係 学校側からは「実習」と「就労選択支援(アセスメント)」を明確に分けたいとの声。実習は教育課程の一部、就労選択支援は福祉サービスで目的が異なる。2年次に選択支援、3年次に実習を行う形が現実的で、長期休暇中の実施も有効。					
② 不登校・通学困難な生徒への支援 不登校・通学困難な生徒でも就労意欲があるケースもある。在宅支援の工夫や柔軟な支援が必要。月1回でも来所できたらOKとするなど現場の柔軟性が求められる。 →「来れない」もアセスメントの結果。そもそも就労なのか?という疑問がある。 →その回数でアセスメントをとれるのか?					
③ 18歳前後の選択支援利用と申請手続き 17歳での利用時の児相の許可が必要になるが、申請時期が不明確。 →児相にまとめて依頼しているが、現時点で1カ月以上かかっている。 希望が聞かれた段階で、早めに申請するよう案内をお願いしたい。					
④ 相談支援専門員との連携課題 短期関与(1ヶ月)の計画相談になる可能性がある。期間の長短に関係なく担当しなければならない。 担当者会議は相談員主導が原則で、誤解防止のため勉強会を提案。					
⑤ 就労選択支援後の移行先について 就労選択支援後にB型ではなく自立訓練・生活介護が適切とされることもある。本人や家族の希望とのずれを解消するため、現実的な理解共有と情報提供が必要。					
次回		進行		発表	